



# 炉物理連絡会ニュース (No. 18)

1993年1月28日発行



## 目次

平成5年度炉物理連絡会委員候補 .....	1
第50回「炉物理連絡会」総会議事要旨 .....	2
7th International Conference on Emerging Nuclear Energy Systems - ICENS '93 - .....	3
International Conference and Technology Exhibition on Future Nuclear Systems: Emerging Fuel Cycles and Waste Disposal Options - GLOBAL '93 - .....	4
炉物理連絡会誌「炉物理の研究」 .....	5

## 平成5年度委員の候補

炉物理連絡会内規第(6)項その1に基づき、平成5年度炉物理連絡会委員の候補名をお知らせいたします。委員選任は、同内規第(6)項に基づき、来る1993年原子力学会の年会において開催される炉物理連絡会総会にて行われることとなります。

委員長	高橋 亮人	阪大・工・原子力
副委員長	成田 正邦	北大・工・原子力
企画	山根 義宏	名大・工・原子核
企画	三沢 毅	名大・工・原子核
総務	竹田 敏一	阪大・工・原子力
総務	小原 徹	東工大・原子炉研
編集	神野 郁夫	京大・工・原子核
編集	橋本 憲吾	近畿大・原子力研

なお、平成5年度の幹事機関は名古屋大学にお願いすることが決定済みであります。

## 第50回「炉物理連絡会」総会議事要旨

1992年10月20日(12:00~13:00) 於 名古屋大 原子力学会秋の大会会場

関本委員長により議事が進められた。

### (1) 夏期セミナー報告

幹事校の東北大より報告があった。

「1992年度炉物理・夏期セミナー」

場所：東北大川渡セミナーハウス

日時：1992年8月5日~8日

参加者：約60名

収入：1137118円

支出：957022円

セミナー詳細は、学会誌9月号をご覧ください。

### (2) 古橋基金について

昨年度古橋氏より、新たに150万円の寄付を戴き基金額が大幅に増え、年間約8万円程度が利用可能となった。この基金の利用方法については、昨年度の炉物理連絡会総会にて、夏期セミナーの若手研究者発表会参加者へ補助を行うことが平成4年度のみを暫定利用措置として決められた。

その決定に基づき、本年度夏期セミナーで、若手研究者3名(北海道大学、東京工業大、京都大・原子炉)に総額69000円を支給した。今回の支給基準は以下の通り。

①指導教官からの推薦により申込を受ける。

②片道運賃(学割無し)の2倍に宿泊補助5000円を加算した額を支給する。

来年度以降については、この形を継続することが委員長より提案され拍手にて承認された。

### (3) 部会制について

昨年度から浮上してきた「原子力学会の部会制問題」についての議論があった。

委員長から、昨年度末の学会からの問い合わせ(炉物理連絡会の対応について)に対し、

今年度初めに、炉物理連絡会では部会制の具体的な内容が不明確であるため、それが明らかになった段階で、再検討を行う旨の回答を行ったことが報告された。さらに、本年度学会誌に記載された、企画委員会からの部会制案についての紹介も委員長からなされた。

また、平岡企画委員から、(1)部長は学会内のその分野を代表して外部との活動交流を行うこと、(2)学会に参加していない外部者は部会に含めないこと、(3)部会と連絡会は併立すること等が企画委員会で持っているイメージであるとの説明があった。その時、企画委員会内では、分化活動や試行期間等については意見がまとまっていないことも報告された。

これらの説明を受け、以下の2点を主とした議論が行われた。

①学会自体が部会制を取ることにについて。

②炉物理連絡会が部会制に移行することについて

①については、以下のような議論があった。

- ・学会がやりたことを止める必要はない。やりたい人がいれば認めていい。
- ・学会内の海外調査連絡会などは部会に馴染まないのではないか
- ・併立制なら問題はないのではないか。

この議論の後、①に関し、炉物理連絡会としては賛成の意向であるとの意見集約が委員長によってなされその方向が総会で承認された。

②については、以下のような議論があった。

- ・現在の連絡会は、メンバーが固定しており、若手の参加を増やすためには、部会制のほうがいい。
- ・部会制に移行したとき、extra-chargeがあるのか。
- ・ANSのdivisionとの関連は。

- ・ANSのシステムのようにであれば、移ってもよいのではないか。
- ・炉物理関係では、原研炉物理委員会/シグマ委員会がすでに部会に相当する機能を果たしているのではないか
- ・原研ではなく、学会でその機能を持つ必要がある。
- ・移行のメリット・デメリット両者があると思う。デメリットとして移行後の運営の労力が多くなるであろう。その点を議論しておく必要がある。

以上のような議論の後、結論は次回以降に持

ち越すこととなった。

#### (4) 委員会報告

企画委員会、編集委員会からは、特に報告することがないとの説明があった。

#### (5) 国際学会

ANSの1996年ミーティングを日本で開催する方向で検討していることが、阪大住田先生より報告された。事務方としては原研炉物理委員会が行うことも報告された。

## 7th International Conference on Emerging Nuclear Energy Systems

- ICENS '93 -

1993年9月20日(月)～24日(金)

千葉市幕張メッセ国際会議場

主催：日本原子力研究所

共催：動力炉核燃料開発事業団、  
理化学研究所、核燃料科学研究所、  
大阪大学レーザー核融合研究センター

後援：化学技術庁他国内6機関、  
米国原子力学会他国外4機関

The main objective of the conference is to discuss, on a broad international base, the state of various advanced and non-conventional concepts for nuclear energy production. The program will be comprised of invited papers as well as submitted contributions in oral and poster sessions.

#### トピックス

- (1) 核融合によるエネルギー生産と利用
- (2) 核分裂による革新的なエネルギー生産

と利用

- (3) エネルギーシステムのための加速器の利用
- (4) 革新的なエネルギー貯蔵と変換
- (5) その他の革新的なシステム
- (6) 一般的な話題

#### 参加手続き

セカンドアナウンス発送

1993年2月 1日

アブストラクト締切

1993年4月19日

本論文提出

1993年9月20日

#### 問い合わせ先

ICENES事務局

日本原子力研究所東海研究所

原子炉工学部 事務室

TEL: 0292-82-5305, 5306

FAX: 0292-82-6122

International Conference and Technology Exhibition on  
Future Nuclear Systems: Emerging Fuel Cycles and Waste Disposal Options

- GLOBAL '93 -

主催：米国原子力学会

共催：日本、ヨーロッパ、カナダ、  
ロシア原子力学会、EPRI他

日時：1993年

9月12日（日）～17日（金）

内容：

Papers are solicited on topics related to future chemical processing-based nuclear waste management, disposal technologies and systems designed to minimize the volume and toxicity of wastes

トピックス

NUCLEAR SYSTEMS:

Total nuclear system requirements  
Nuclear system evaluation criteria  
Impact of advanced partitioning on disposal options  
Technical and institutional anti-proliferation options  
Safe guard and detection technologies  
Advanced fuel cycle systems

ADVANCED CHEMICAL SEPARATIONS:

Actinide and fission product chemical separations  
Reprocessing of transmutation target materials  
Recycle of chemical reagents  
Target and fuel fabrication performance  
Fabrication, waste minimization and recycle

WASTE TRANSMUTATION:

Plutonium recycle  
Waste transmutation in power reactors  
Waste transmutation in special purpose devices  
High power accelerator technologies  
Safety of transmutation systems  
Nuclear data  
Properties and science of actinides and fission products

WASTE TREATMENT AND DISPOSAL:

Conversion of chemical partition to final waste forms  
Characteristics and behavior of final waste forms  
Beneficial use of selected partition  
Reprocessing, offguard collection, treatment  
Decontamination and packaging of contaminated metal  
Management and disposal of processing wastes  
Low level waste minimization, treatment, packaging  
Characteristics, behavior of secondary waste forms  
Low level waste disposal options  
Intermediate waste disposal options  
Disposal options for selected partitions  
Disposal options for partitioned high level waste

SPECIAL INTER EST TOPICS:

Furistic nuclear power concepts  
Weapon materials disposition  
Public attitude on reprocessing  
Uranium resource projections

"Special features will include invited papers on natinal energy strategies, as well as a roundtabl discussion on long-term survial of nuclear power arnidst proliferation concerns"

HONARY CHAIRMAN:

W. Hafele,  
Zentralinstitut Kern forschung

GENERAL CO-CHAIRMAN:

A. E. Walter, T. W. Woods,  
Westinghouse Hanford Company

PROGRAM CO-CHAIRMAN:

J. A. Rawlins,  
Westinghouse Hanford Company  
M. Salvatores,  
Commissariat a L'Energie Atomique  
T. Mukaiyama, JAERI

サマリー締切: 1992年12月末  
論文締切 : 1993年5月15日  
連絡先: 学会事務局 又は、  
向山(原研) Fax: 0292-82-5325

炉物理連絡会誌 「炉物理の研究」(第42号)の概要

平成4年度は、「フェルミの臨界から50年」を記念した特集号として編集を進めています。記念記事として、

- (1) 炉物理とともに、
- (2) 大学研究炉のあゆみ、
- (3) 炉物理との出合とこれからの抱負

の3企画を組む予定であります。”炉物理とともに”では、日本の炉物理研究を第1線で支えてこられた諸先生から炉物理研究のエピソード、炉物理の問題点や後輩に対する助言等を語っていただく予定であります。対して、”炉物理との出合とこれからの抱負”では、現在、研究の最先端を担っておられる若手研

究者の方々からの炉物理との出合を含めて炉物理をどのように考え、どのような方向の行くべきなど、これからの抱負を語っていただく予定であります。また、”大学研究炉のあゆみ”では、国内の大学が持つ原子炉(研究炉)の生い立ちから今までの変遷、今後の行方などをまとめていただく予定であります。

その他、京大原子炉の研究者とフランスCEAとの協同研究の概要、国際会議報告、秋の大会での核データ・炉物理特別会合講演要旨、各委員会報告などを予定しております。

**炉物理連絡会会員募集中!**

炉物理連絡会に入会ご希望の方は、年会費(正会員:1,500円、学生会員:1,000円)を添えて、直接、日本原子力学会事務局(TEL:03-3508-1261)までお申し込み下さい。

「炉物理連絡会」会員総会のお知らせ

来る「1993年春の年会」の折、次の通り第51回会員総会を開催いたします。  
多数のご参加をお願いします。

日 時： 3月28日（日） 12:00～13:00

場 所： 「1993年春の年会」A会場 （於：京都大学工学部）